

## 計算式の使用法

計算式を使うと項目間の計算だけでなく、出力内容に関数を指定することが可能になります。以下に使用例と指定方法を示します。

### 項目間の計算

- ・項目1の消費税額を求める  
 $\%1 * 5 / 100$
- ・項目1と項目2の差を求める  
 $\%1 - \%2$
- ・日時型項目間で経過時間(分)を求める  
\* 日時型項目間で減算を行った場合、結果は日単位になりますので、分を求めるために  $60 \times 24 = 1440$  を掛けます。  
 $(\%1 - \%2) * 1440$

### 関数の指定

- ・項目1が'M'の場合は'男'、それ以外は'女'と出力する  
 $\text{DECODE}(\%1, 'M', '男', '女')$
- ・項目1が'M'の場合は'男'、'F'の場合は'女'、それ以外は'不明'と出力する  
 $\text{DECODE}(\%1, 'M', '男', 'F', '女', '不明')$
- ・項目1と項目2を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する  
 $\text{DECODE}(\%1, \%2, 0, 1)$
- ・項目1と項目2の先頭3桁を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する  
 $\text{DECODE}(\%1, \text{SUBSTR}(\%2, 1, 3), 0, 1)$
- ・項目1が空白の場合は項目2、項目1が空白でない場合は項目1と項目3を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する  
 $\text{DECODE}(\text{DECODE}(\%1, ' ', \%2, \%1), \%3, 0, 1)$
- ・項目1がNULLの場合は項目2、項目1がNULLでない場合は項目1と項目3を比較し、値が同じ場合は'0'、異なる場合は'1'を出力する  
 $\text{DECODE}(\text{DECODE}(\text{NVL}(\%1, 1), 1, \%2, \%1), \%3, 0, 1)$   
  
\* %1が文字型の項目の場合  
 $\text{DECODE}(\text{DECODE}(\text{NVL}(\%1, 'NULL'), 'NULL', \%2, \%1), \%3, 0, 1)$

この他にも、TO\_VAL、TO\_CHAR、MONTHS\_BETWEENなど、色々な関数を使用できますので、用途に応じて試してください。

### その他

- ・集計処理でレコードの件数をカウントする  
計算式に1(数字)を指定し、集計方法を合計にする。

### 計算式の条件抽出

- ・計算式に抽出条件を指定することも可能です。但し、この場合、計算結果は数値でなければなりません。

## 計算式の指定方法

1. <システム設定>より該当のデータ辞書のプロパティを表示する。



2. 計算式項目を追加したい位置にカーソルを移動し、<追加>ボタンを押す。



3. 項目選択画面で、左下の<計算式を指定>ボタンを押す。



4. 新しい行が追加され、項目名には<計算式>と表示されるので、項目名を上書きし、<計算式>ボタンを押す。

5. 計算に使用する項目を選択する。候補の項目には、参照テーブルで指定されたテーブルの全ての項目が表示されます。  
項目が複数ある場合は、<追加>ボタンで追加する。  
\* 項目が1つも選択されていない場合、計算式画面の表示と同時に、項目選択画面が表示されず。項目を使用しない場合は、<取消>ボタンを押し、計算式を指定してください。

項目No.	項目名称	参照テーブル名
1		

6. 計算式欄に計算式を指定する。

この時、項目は '%1' のように、%と項目 を使って指定する。

項目No.	項目名称	参照テーブル名
1	売上金額(税抜)	売上伝票
2	消費税額	売上伝票

7. <OK>ボタンを押し、設定を保存する。